

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-111873

(43) 公開日 平成10年(1998) 4月28日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I		
G 0 6 F 17/30		G 0 6 F 15/403	3 4 0 A	
12/00	5 4 7	12/00	5 4 7 H	
13/00	3 5 1	13/00	3 5 1 G	
		15/403	3 4 0 B	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 6 頁)

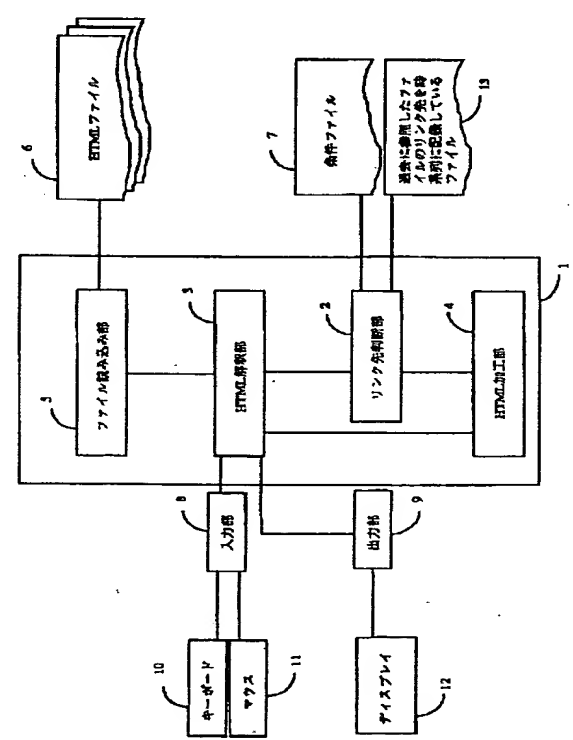
(21) 出願番号	特願平8-267153	(71) 出願人	000004226 日本電信電話株式会社 東京都新宿区西新宿三丁目19番2号
(22) 出願日	平成8年(1996)10月8日	(72) 発明者	飛田 直人 東京都新宿区西新宿三丁目19番2号 日本電信電話株式会社内
		(72) 発明者	木原 洋一 東京都新宿区西新宿三丁目19番2号 日本電信電話株式会社内
		(72) 発明者	坂本 弘章 東京都新宿区西新宿三丁目19番2号 日本電信電話株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 若林 忠

(54) 【発明の名称】 HTMLファイルブラウザのリンク先制御方法およびシステム

(57) 【要約】

【課題】 HTMLファイルにおけるリンクオブジェクトに複数のリンク先を対応させ条件に応じてリンク先を自動的に選択する。

【解決手段】 HTMLファイルにおけるリンクオブジェクト対応部分に、複数のリンク先をリンク条件とともに記述するか、または、リンク先を選択する基準となる条件を変数の形で記述する。ブラウザは、リンク条件またはリンク先アドレスの記述してある別のファイルを参照し、上記のリンクオブジェクト対応部分に、複数リンク先がリンク条件とともに設定してある場合には条件に適するリンク先を選択して他のリンク先を削除し、または、変数にてリンク先の選択基準が設定してある場合にはリンクオブジェクト部分に1つのリンク先を設定し、従来の形式すなわち、一つのリンクオブジェクトには一つのリンク先が設定されているHTMLファイルに整形する。以後は、従来のブラウザと同様の手順による。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 HTMLファイル内で他ファイルへのリンク先を設定したテキストや絵であるリンクオブジェクトを記述し、該リンクオブジェクトを指定することによりリンク先の情報を参照するHTMLファイルブラウザのリンク先制御方法において、

HTMLファイルにおけるリンクオブジェクト対応部分に、複数のリンク先アドレスをリンク条件とともに記述する手順と、

ブラウザが、リンク条件の記述してある別のファイルを参照し、上記の条件に適するリンク先アドレスのみを残して他のリンク先アドレスを削除し、1つのリンクオブジェクトには1つのリンク先アドレスが設定されている形式のHTMLファイルに整形する手順とを有し、記憶している条件を参照し、複数のリンク先候補から1つのリンク先を選択し、他の情報へのリンクを設定することを特徴とするHTMLファイルブラウザのリンク先制御方法。

【請求項2】 HTMLファイル内で他ファイルへのリンク先を設定したテキストや絵であるリンクオブジェクトを記述し、該リンクオブジェクトを指定することによりリンク先の情報を参照するブラウザにおけるHTMLファイルブラウザのリンク先制御方法において、

HTMLファイルにおけるリンクオブジェクト対応部分に、リンク先を選択する基準となる条件を変数の形で記述する手順と、

ブラウザが、リンク先選択基準となる変数の各値に対応するリンク先アドレスの記述してある別のファイルを参照し、上記HTMLファイルのリンクオブジェクト対応部分に設定された変数の値に対応するリンク先アドレスを、上記の変数の代わりに設定し直し、1つのリンクオブジェクトには1つのリンク先が設定されている形式のHTMLファイルに整形する手順とを有し、

該変数を評価し、1つのリンク先を算出し、他の情報へのリンクを設定することを特徴とするHTMLファイルブラウザのリンク先制御方法。

【請求項3】 HTMLファイル内で他ファイルへのリンク先を設定したテキストや絵であるリンクオブジェクトを記述し、該リンクオブジェクトを指定することによりリンク先の情報を参照するブラウザにおけるHTMLファイルブラウザのリンク先制御システムにおいて、

HTMLファイルにおけるリンクオブジェクト対応部分に、複数のリンク先アドレスをリンク条件とともに記述する手段と、

ブラウザが、リンク条件の記述してある別のファイルを参照し、上記の条件に適するリンク先アドレスのみを残して他のリンク先アドレスを削除し、1つのリンクオブジェクトには1つのリンク先アドレスが設定されている形式のHTMLファイルに整形する手段とを有し、

記憶している条件を参照し、複数のリンク先候補から1

つのリンク先を選択し、他の情報へのリンクを設定することを特徴とするHTMLファイルブラウザのリンク先制御システム。

【請求項4】 HTMLファイル内で他ファイルへのリンク先を設定したテキストや絵であるリンクオブジェクトを記述し、該リンクオブジェクトを指定することによりリンク先の情報を参照するブラウザにおけるHTMLファイルブラウザのリンク先制御システムにおいて、HTMLファイルにおけるリンクオブジェクト対応部分に、リンク先を選択する基準となる条件を変数の形で記述する手段と、

ブラウザが、リンク先選択基準となる変数の各値に対応するリンク先アドレスの記述してある別のファイルを参照し、上記HTMLファイルのリンクオブジェクト対応部分に設定された変数の値に対応するリンク先アドレスを、上記の変数の代わりに設定し直し、1つのリンクオブジェクトには1つのリンク先が設定されている形式のHTMLファイルに整形する手段とを有し、該変数を評価し、1つのリンク先を算出し、他の情報へのリンクを設定することを特徴とするHTMLファイルブラウザのリンク先制御システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は記述言語HTMLにより記述されたHTMLファイルを用いた情報提供サービスに関し、特にブラウザのリンク先制御方法およびシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】 インターネット上に公開されている情報はNetscapeやMosaic等のブラウザの使用によって参照される。その情報はHTMLという記述言語を用いて作成され、HTMLでは他の情報へリンクさせるためのアドレス情報を持つリンクオブジェクトを設定することが可能である。

【0003】 HypertextMarkupLanguage-2.0(RFC1866)にあるように、従来の技術ではリンクオブジェクトにはある固定的なリンク先をHTMLファイル内に1つしか設定できない。このためブラウザでは1つのリンクオブジェクトから動作状況(条件)に応じてリンク先を変えることができない。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 エレクトロニックコマースなどでは、同一のリンクオブジェクトをユーザが指定した場合でも、ユーザの利用履歴や嗜好等の条件に応じて自動的にリンク先を選択し、ユーザ毎に適した異なる情報を提供することができると便利である。

【0005】 本発明の目的はHTMLファイルにおけるリンク先を設定したテキストや絵であるリンクオブジェクトに複数のリンク先を対応させ条件に応じてリンク先を自動的に選択するHTMLファイルブラウザのリンク

先制御方法およびシステムを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明はHTMLファイルの1つのリンクオブジェクトに対し、あらかじめ当該HTMLファイル内、またはブラウザの参照する別のファイルや記憶装置に複数の設定しておいたリンク先から、最適なリンク先を1つ選択する機能をブラウザに持たせることを主要な特徴とする。従来の技術とは条件に応じ、最適なリンク先をブラウザが選択する点が異なる。

【0007】本発明では、HTMLファイルにおけるリンクオブジェクト対応部分に、複数のリンク先をリンク条件とともに記述するか、または、リンク先を選択する基準となる条件を変数の形で記述する。次いで、ブラウザは、リンク条件またはリンク先アドレスの記述してある別のファイルを参照し、上記のリンクオブジェクト対応部分に、複数リンク先がリンク条件とともに設定してある場合には条件に適合するリンク先を選択して他のリンク先を削除し、または、変数にてリンク先の選択基準が設定してある場合にはリンクオブジェクト部分に1つのリンク先を設定し、従来の形式すなわち、一つのリンクオブジェクトには一つのリンク先が設定されているHTMLファイルに整形する。以後は、従来のブラウザにおけるものと全く同様の手順により、他の情報へのリンクを設定する。

【0008】こうして、リンクオブジェクトに指定された複数リンク先から、条件に応じて自動的にリンク先を選択することが可能となる。

【0009】

【発明の実施の形態】図1は本発明のHTMLファイルブラウザのリンク先制御システムを説明するブロック図である。1はHTMLファイルブラウザで、2のリンク先判断部、3のHTML解釈部、4のHTML加工部、5のファイル読み込み部から構成される。

【0010】HTMLファイルブラウザ1ではキーボード10から入力されたプロトコル名、サーバ名、あるいはディレクトリ名であるURLを入力部8を介してHTML解釈部3にて解釈し、ファイル読み込み部4を用いて当該URLを持つサーバよりHTMLファイル6を読み込む。読み込んだHTMLファイル6はHTML解釈部3にて解釈して画面を整形し、出力部9を通してディスプレイ12に表示する。次に、具体的な第1の実施例を図面を参照して説明する。

【0011】ディスプレイ12上に既に表示されているHTMLファイルのリンクオブジェクトをマウス11を使用して指定すると、そのリンクオブジェクトに設定されているリンク先が入力部8を介してHTML解釈部3に渡され、そのリンクオブジェクトに設定されているリンク先から新しいHTMLファイル6をファイル読み込み部5に読み込み、HTML解釈部3に渡される。この

時読み込んだHTMLファイル6の内容を図2に示す。

【0012】HTML解釈部3ではHTMLファイル6内から複数のリンク先を設定してあることを示すタグ<SOMELINK>を検索し、もし<SOMELINK>のタグがあればリンク先判断部2を起動する。リンク先判断部2にて条件ファイル7を参照し、条件ファイル7の記述がJOKEN=1である場合は、リンク先判断部2で<!...JOKEN=1...>のある行のリンク先を選択し、HTML加工部4にて<SOMELINK>から</SOMELINK>の間に記述されている<!...JOKEN=1...>のある行以外の行を全て削除する。また条件ファイル7の記述がJOKEN=0である場合には、リンク先判断部2で<!...JOKEN=0...>のある行のリンク先を選択し、HTML加工部4にて<SOMELINKS>から</SOMELINK>の間に記述されている<!...JOKEN=0...>のある行以外の行を全て削除する。このようにHTML加工部4で加工したファイルの内容を図3に示す。この段階で、新しく取得したHTMLファイル6は従来形式のHTMLファイルとなっている。そして加工済のHTMLファイルをHTML解釈部3に渡し、整形後出力部9を通してディスプレイ12に表示する。以上の動作をフローチャートにしたものが図4である。

【0013】次に、具体的な第2の実施例について説明する。

【0014】ディスプレイ12上に既に表示されているHTMLファイルのリンクオブジェクトをマウス11を使用して指定すると、そのリンクオブジェクトに設定されているリンク先が入力部8を介してHTML解釈部3に渡され、そのリンクオブジェクトに設定されているリンク先から新しいHTMLファイル6をファイル読み込み部5に読み込み、HTML解釈部3に渡される。この時読み込んだHTMLファイル6の内容を図5に示す。

【0015】HTML解釈部3ではHTMLファイル6内から\$\$\$で挟まれた変数を検索し、もし変数があればリンク先判断部2を起動する。リンク先判断部2にてこれまでに参照したファイルのリンク先を時系列に記録してあるファイル13を読み込み、変数に合うリンク先を選択し、HTML加工部4にて変数\$\$\$back3\$\$\$を選択したリンク先の記述に置換する。このようにHTML加工部4で加工したファイルの内容を図6に示す。この段階でHTMLファイル6は、従来形式のHTMLファイルとなっている。そして加工済のHTMLファイルをHTML解釈部3に渡し、整形後出力部9を通してディスプレイ12に表示する。以上の動作をフローチャートにしたものが図7である。

【0016】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のHTMLファイルブラウザのリンク先制御方法およびシステムは、HTMLファイルにおけるリンクオブジェクトにリ

リンク先を複数設定し、条件に応じてリンク先を選択できるため、条件の設定次第で適切なファイルへのリンクを選択できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例におけるHTMLファイルブラウザのリンク先制御システムのブロック図である。

【図2】第1の実施例にてファイル読み込み部に読み込んだ状態の加工前のHTMLファイルである。

【図3】第1の実施例にて図2のHTMLファイルを、HTML加工部で加工した後のHTMLファイルである。

【図4】第1の実施例のフローチャートである。

【図5】第2の実施例にてファイル読み込み部に読み込んだ状態の加工前のHTMLファイルである。

【図6】第2の実施例にて図5のHTMLファイルを、HTML加工部で加工した後のHTMLファイルである。

【図2】

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>tokkyo_html ex</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<H1>特許・HTMLファイルブラウザ</H1>
<A HREF="http://www.ntt/joho1.htm">
情報1へ遷移</A>

<SOMELINKS>
<!-- JOKEN=0 --> <A HREF="http://www.ntt/joho2.htm">
<!-- JOKEN=1 --> <A HREF="file:///d:/ntt/joho2.htm">
</SOMELINKS>
情報2へ遷移</A>

</BODY>
</HTML>
```

【図6】

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>tokkyo_html ex2</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<H1>特許・HTMLファイルブラウザ</H1>
<A HREF="http://www.ntt/joho1.htm">
情報1へ遷移</A>

<A HREF="file:///d:/ntt/joho3.htm">
3画面前に遷移</A>

</BODY>
</HTML>
```

る。

【図7】第2の実施例のフローチャートである。

【符号の説明】

1	HTMLファイルブラウザ
2	リンク先判断部
3	HTML解釈部
4	HTML加工部
5	ファイル読み込み部
6	HTMLファイル
7	条件ファイル
8	入力部
9	出力部
10	キーボード
11	マウス
12	ディスプレイ
13	履歴ファイル

【図3】

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>tokkyo_html ex</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<H1>特許・HTMLファイルブラウザ</H1>
<A HREF="http://www.ntt/joho1.htm">
情報1へ遷移</A>

<!-- JOKEN=1 --> <A HREF="file:///d:/ntt/joho2.htm">
情報2へ遷移</A>

</BODY>
</HTML>
```

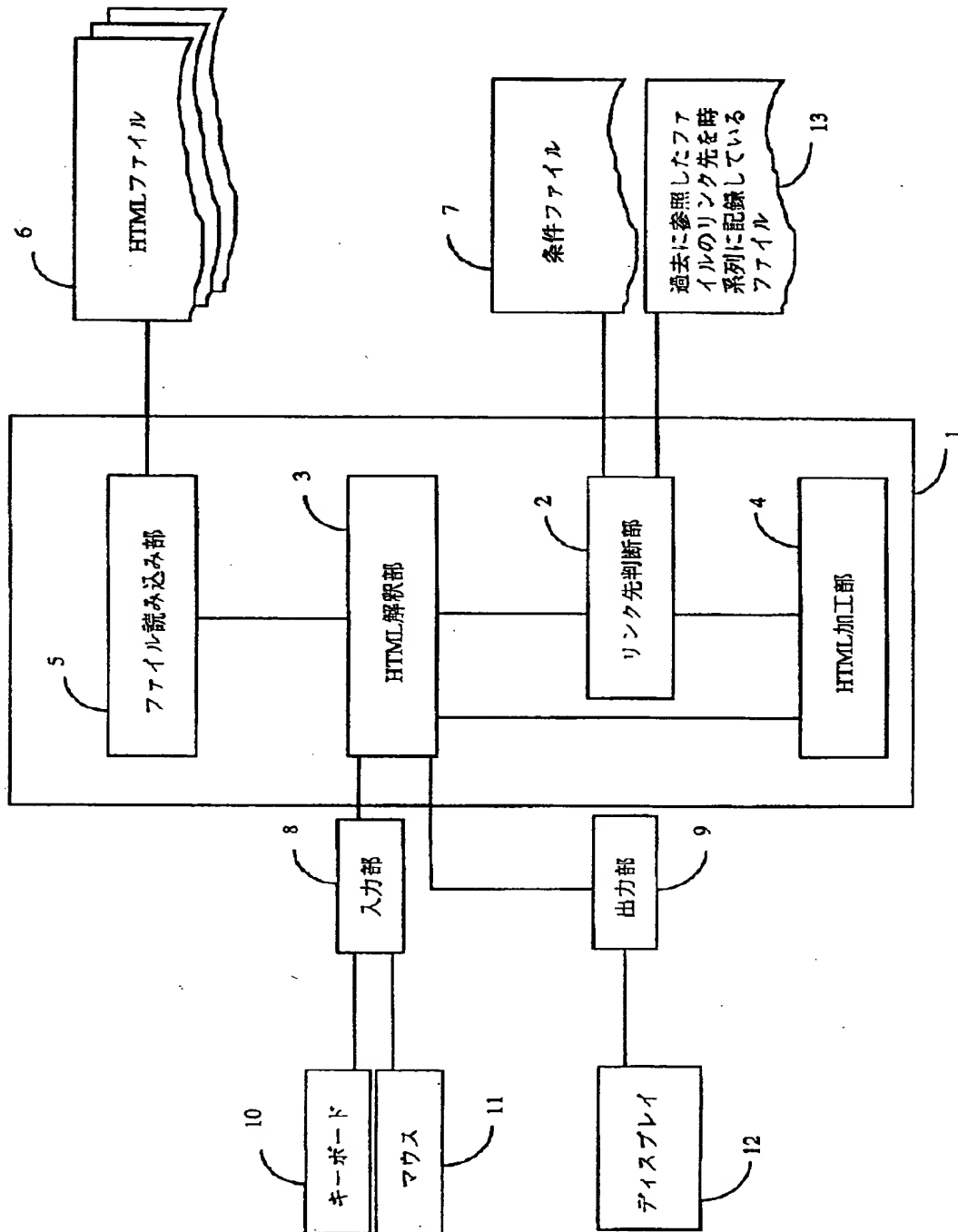
【図5】

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>tokkyo_html ex2</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<H1>特許・HTMLファイルブラウザ</H1>
<A HREF="http://www.ntt/joho1.htm">
情報1へ遷移</A>

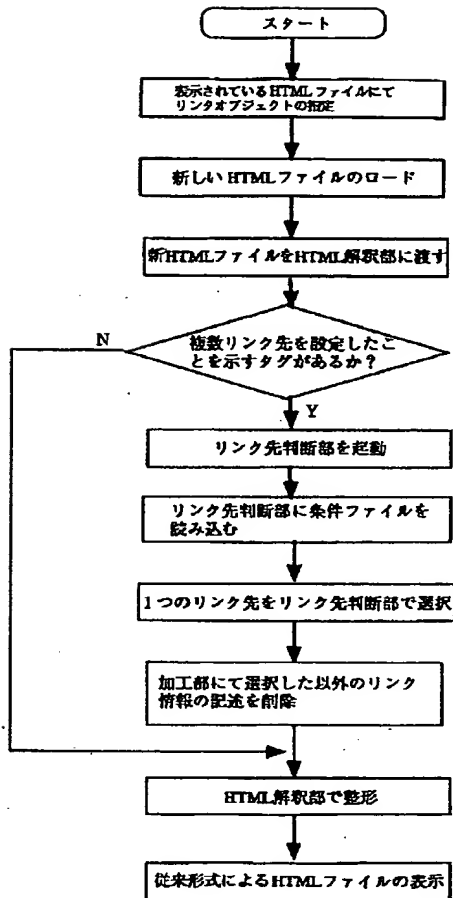
<A HREF="$$$back$$$">
3画面前に遷移</A>

</BODY>
</HTML>
```

【図1】



【図4】



【図7】

